

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872005012		
法人名	医療法人社団 みなみつくば会		
事業所名	グループホーム 筑水苑		
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市谷田部 6107-1 (電話)029-839-5558		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成21年1月18日	評価確定日	平成21年4月20日

## 【情報提供票より】(20年12月31日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18年3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.9 人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	550 円
	夕食	650 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1800 円		

## (4)利用者の概要

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名	
要介護1	6 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.6 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	つくばメディカルセンター・学園病院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要幹線道路から少し入ったところにある、介護老人保健施設やクリニックを併設したホームである。クリニックにはウェルネスクラブと称する健康づくりの環境があり、ホームの利用者も気軽に利用することができる。管理者以下職員は、みな利用者の尊厳を尊重したケアに取り組んでおり、特に接遇面を強化していることもあり、利用者もとても穏やかに過ごしている様子が感じられた。職員は、アイデアを出しあって季節感を出す行事等を企画している。職員と利用者が、親しい関係を構築し、一体となった雰囲気をもつホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価や前回の外部評価の結果はホームの入口に掲示し、誰でも閲覧可能な状態となっている。また、前回の外部評価の結果を受けて、災害時に備えて食料等の備蓄を行うなど、改善すべき点を明らかにしその解決に取り組む姿勢が感じられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員ミーティングで話し合い、管理者が記載・作成を行った。自己評価は特定の職員だけで行うのではなく、可能な限りホームの全職員で取り組むことが望ましい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の議題では、区長を通じて災害時の協力体制などについて話し合っていた。そのほかにも、ホームの行事や利用者の様子などを報告し、意見をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回家族会を開催し、家族から要望や苦情を受ける体制を整えている。また、家族の面会時には、利用者の日常生活について詳細に報告や連絡を行っている。家族からの要望に対し、ホーム側は可能な限り対応するよう心がけているが、法人全体としての対応が円滑でないことが今後の課題としてあげられる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市内の祭事や敬老会などに参加している。また、併設老人保健施設と合同の行事を企画し、そのときには近隣住民を招いているなど、地域交流の機会を大切にしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念をもとに、自分の家で暮らせるように支援したい、という思いのもとユニットごとに運営理念を設定している。		地域に根づくグループホームという思いも考え、グループホームの独自性のある運営理念があると望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送りのときなど話し合い、特に利用者への接遇の面で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会などに利用者が参加している。法人で主催する夏祭りやクリスマス会に、地域住民との交流機会ができるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価から明らかになった改善点に向けて取り組んでいる。外部評価の結果は、ホームの入り口に掲示されていて来訪者が閲覧可能になっている。	○	自己評価は可能な限り全職員で行い、日々の業務のふり返りの機会として取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催され、利用者代表や地域住民、行政職員などが参加している。災害時の対応方法などについて話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険関係課に出向き、情報収集に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会時には近況報告を行い、利用者に変化があったときには電話連絡を行っている。年二回家族会を開催している。	○	家族会であげられた要望に対し、迅速に返答を行うことが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見ボックスなどで家族からの要望や苦情を受け付ける体制を整えている。家族は職員に直接訴える関係性が構築されている。	○	家族からの要望や苦情が運営に反映されていない。特に苦情に関しては、ホームのみでなく法人全体としてとらえていくことが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については利用者へ伝達を行い、ダメージの防止に努めている。家族へも報告を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や外部研修に、職員が参加できるよう取り組んでいる。		年間研修計画を作成し、すべての職員が研修に参加できるよう計画的に取り組むことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス連絡会に参加し、他のグループホームと交流する機会を持っている。相互に空床状況を情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者に限らず自由に見学が可能である。利用を検討する方には、日中にお茶を飲みに来ていただくよう声をかけ、徐々になじんでいただくことも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して常に尊敬の姿勢で接している。利用者も職員を気遣い、若い職員を励ましている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用し、利用者のできることやしたいことの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族からの聞き取りを行い、職員間で話し合いを行いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に利用者の変化が見られなくても、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。再作成された介護計画は、利用者や家族に報告を行っている。		モニタリングの実施記録を専用書式で行い、カンファレンスに参加できない関係者(主治医など)からは照会記録をとることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内にある法人の他のサービスが円滑に利用でき、ホームの多機能性を常に地域に知らせている。利用者及び家族には柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内にあるクリニックが隔週1回往診を行っていることが、書類によって確認できた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に関するホームの指針が明確に示されている。指針には具体例での説明があり、家族の意見を確認するなどが記載されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に言葉遣いなどの接遇面を重視しているため、利用者に丁寧な接する職員の姿が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のペースに合わせて日々を過ごせるよう支援している。常に利用者の希望を確認し、随時対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間をみんなで楽しめるようにスタッフ間では検討がされているが、ホームでの食事づくりは一部しか実施されていない。おやつづくりの時間を設けて楽しめる場面をつくろうと努めている。	○	利用者、職員とも楽しい食事の時間となるためには、ホームで食事づくりができるよう検討を重ねることが求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の混乱を避けるため、入浴曜日を伝えている場合もあるが、基本的にはいつでも自由に入浴可能で、特に入浴日を設けてはいない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴をみながら、生活の中からできることを見つけ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩がてら買い物や近くの喫茶店に行くなど、外出の機会を多く取り入れている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、基本的にオープンにしている。徘徊のある方には目配りで日々ケアに対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	食糧等の備蓄は併設施設で3日間分準備している。利用者と共に訓練の実施を行っている。		ホーム独自に食糧などの備蓄ができるよう検討を重ねていくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録はとられており、水分摂取も利用者それぞれの状態に応じて記録をとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光が差し込む明るい空間となっており、決して派手ではないが落ち着いた雰囲気を持っている。	○	利用者の身体状況を考慮したものを取り入れ、利用者にとって過ごしやすい空間づくりに努めていく事が望ましい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の私物が多く持ち込まれ、利用者の個性が感じられる居室となっている。		